



炬火を掲げていざ謳う

No.36



# 我々の泉鳥取

2023年3月15日(水)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

## 第45回 卒業証書授与式

-来年は2学年に-

2月28日(火)、第45回卒業式が挙行され、45期生163名が卒業しました。



### 校長式辞(要約)



皆さんは新型コロナウィルスのおかげで、大変な状況の中スタートを切らなければなりません。「入学式」は実施できず、「一斉休校」が学校の始まりとなりました。やっと登校できるようになったのは6月になってからの教科書販売の日でした。

学校が始まって、本来高校生活で得られる行事での楽しい姿を学ぶ機会がうばわれました。3年間最大の行事である修学旅行も何度も時期や方面を変更し、実施を検討し、最終的には岐阜県へのスキー修学旅行を何とか実施できました。今日までマスクを外せることはありませんでした。制約の多い高校生活だったと思います。

今後の人生においても様々な苦勞や困難が立ちまわることがあるでしょう、しかし君たちは新型コロナウィルス感染症を乗り越えた世代として、これから先、泉鳥取高校の歴史に記憶されることと思います。

どんなときにも前向きで、負けない、最後まであきらめない心、「イストリ魂」を大切にしてください。

「偉大な目標が人間を偉大にする」昨日の自分と比べて今日の自分は成長したのか。先月の自分と比べて今月の自分はどうか。去年と比べて今年はどうか。自分と他人とを比べるのではなく、自分自身の過去と現在と未来の前進を比べる。最後まであきらめない。それが「イストリ魂」です。

本校で身に付けたその「イストリ魂」のもと、常に最善を尽くし、必ずや希望や夢を実現できると確信しております。終わりに、卒業生の皆さんひとり一人が、それぞれの世界に向けて力強く旅立ち、その前途が洋々たることを願って式辞といたします。

### 卒業生 答辞(要約)

私たち三年間の高校生活は、コロナとの闘いでした。入学式もできないまま、約2ヶ月間自宅待機となり、新しい友達にも会えず、不安でした。六月に初めてクラスメイトに会えた時は、やっと高校生活が始まると思い、本当に嬉しかったことを今でも覚えています。その後もコロナウィルスの影響を受け、行事が開催されず、楽しい記憶が少ない1年間でした。

2年生では高校に入ってから初めての体育祭。団活動や競技、すべて楽しかったのを覚えています。校外学習は神戸に行きました。高校に入ってから初めての遠出は楽しかったです。文化祭は、校外学習で行った南京町をイメージした飾り付けや出し物をしました。初めてちゃんと行事を実施できた年で、いい思い出になりました。1月、修学旅行は、またコロナの影響で延期となりました。しかし、行き先と場所を変更して春休みに行った岐阜県、愛知県で2日間、スキー、スノーボードをしました。初めての体験ばかりで最高の思い出になった修学旅行でした。

そして3年生、体育祭では、どのクラスも優勝を狙い、応援がグラウンドいっぱい響き渡っていました。応援パフォーマンス、憧れていた團長として動いていく中で、期待と不安に押しつぶされそうになりました。ですが一人一人が協力してくれたことで一致団結できました。みんなから貰った花束は私にとって一生の宝物です。高校生活最後の行事の文化祭。舞台上のパフォーマンスが可能になり、全クラス協力し合い、最高のパフォーマンスができました。

受験に向けて必死に勉強する友達、就職の面接練習をする友達、それを遅くまで残って一緒に考え、悩んでくれた先生方もいました。その度に「みんなが一生懸命に取り組んでいる姿を見る度に、私も」頑張ろうと思えました。感謝でいっぱいです。

在校生の皆さん、残り少ない高校生活存分に楽しんでください。

そして最後に家族のみんな。時には喧嘩をし、心配や迷惑もかけてきました。これからは私達が恩返しできるように頑張りますので、どうか温かく見守っていただけたらと思います。

最後になりましたが、学校生活を支えて下さった全ての方に改めて感謝申し上げます。これからも私たちを見守り、ご指導の程よろしく申し上げます。

卒業生代表 井上 心華 橘 寧々